日本女性会議２０１８　in　金沢

【参加報告書】

たたえようこれまでの道

彩ろう未知なる明日

平成 30 年 10 月 12 日（金）～13 日（土）

江別市男女共同参画推進連絡協議会

江畑　　稔

山田　昌次

＜プログラム＞

１　日程

平成３０年１０月１２日（金)、１３日（土）

２　会場

メイン会場（全体会議・物産展）

金沢歌劇座（金沢市下本多町 6 番丁 27 番地）

分科会会場

金沢歌劇座・金沢商工会議所・石川県政記念しいのき迎賓館・石川県文教会館・石川県教育会館・北國新聞赤羽ホール

＜スケジュール＞

１０月１２日（金）

１３時００分　開会アトラクション
１３時１０分　開会式
１３時３０分　基調報告
１５時００分　分科会

１０月１３日（土）

９時３０分　記念講演
１１時００分　分科会報告
１３時００分　アトラクション
１３時３０分　記念シンポジウム
１５時３０分　閉会式

＜派遣者＞

２名　　江別市男女共同参画推進連絡協議会　　理事　江畑　稔
理事　山田　昌次

次ページ以降、上記スケジュールの中のいくつかをご紹介します。

日本女性会議 2018in 金沢について

それでは今年の日本性会議の報告をさせて頂きます。
今年、女性会議を金沢で開くという構想は、１０年位前からあった様で、その甲斐あって、今回の参加者は２，０００人を超えるという発表がありました。

そして今年の大会スローガンですが、「たたえようこれまでの道、彩ろう未知なる明日」、この由来について、金沢大学特任教授をされている大会実行委員長（女性）の言葉が、格調高く分かり易いので、ここに紹介します。
今回の女性会議では、従来からの基本的なジェンダー問題に加え、金沢には国連大学サステナビリテー高等研究所の支所がありますので、国連の持続可能な開発目標とリンクし、国際社会と連動して、今後共各課題に取り組みたい。
「私達は今、急速な少子高齢化社会に遭遇し、、、拡大、複雑化するグローバル社会の中で、従来の慣習や価値観では対応し切れず、大きな見直しを求められている転換期に立っている事を、まず認識しなければなりません。
その上で、先人達によって築かれた今日の状況に感謝しつつ、それらをより一層発展させ、次世代に手渡すミッションが私達にはあります。
今大会が、未来への第一歩となる事を願っております。

「１日目」　　１０月１２日（金）

＊基調報告＊　　報告者：江畑　稔

【金沢歌劇座１階ホール　１３時３０分～１４時００分】

「フェアネスの高い社会の構築に向けて」

内閣府男女共同参画局長　　池永　肇恵（いけなが　としえ）

現在、安倍政権の中で、男女共同について様々な政策、試みがなされていますが、まだまだ課題が多く積み残されていて、旨く浸透しない現実があります。

その遅々として進まない原因としては何が一番の問題か、、、それはお金、賃金の問題です。
現在、男女の賃金格差は、女性は男子の７３％、３割減でしかない事、、、これが障害になっていて、どんなに旨く仕事をこなしても、この差が縮まらない現実。
この差が、１０％でも２０％でも縮まれば、女性を取り巻く、日常環境は格段に変わると思われます。
更に、男女の肉体的差異を無視して、又社会の因習としての歪を、女性に不当に背負わせて成り立っている現実が是正されない。
例えば

・介　　護・・・・女性の従事が圧倒的に多く、７割を超え、長期に渡っているにも関わらず、その精神的、肉体的消耗が、当然の如く女性が担うものと認識され、殆ど評価されてない現状。
・家事参加・・・・共稼ぎが主流の現実にも関わらず、夫の家事協力が極端に少ない。

肉体的差異、特徴として、

・ガ　ン・・・・・ガン罹病率は女性に多く、中でも恐ろしいのは乳癌、、、他のガンが人生の後期に発病するのに対して、乳がんは若くして発病する傾向があり、掛かればすぐ退職せざるを得ず、生活は瞬時に破壊され、長く貧困に向き合わされていく現実。そして更に悲惨なのは、この貧困が次世代を担う子供達に、深刻なトラウマ等の影を負わせ、社会的不安の起爆剤になる所にまで、政策が及んでない所に、問題の根深さがあり、それが共有されない。
・更年期障害・・・只単に女性ホルモンのアンバランスに原因があるのに、現場サイドでは個人的な性格、不具合として、当事者を苦しめる偏見が無くならない。
・人口減少・・・女性に対する期待が大きくなって、しわ寄せが女性の使い捨ての低賃金に、、、。

ここ迄来ると、女性問題ではなく、女性差別と言っても良い現状が、一向に良くならない。

※これからの対応

１）女性活躍推進法の制定

・事業主に女性活躍の公表を義務付け、企業に強くプレッシャーを与えたい。

・社長の意識改革・・・行動宣言を社員の前でさせる。

・ワークライフ・バランスを徹底させ、長時間労働にはテレワークを推奨、離職率減少出来るのではないか、、、。

しかしこれだけでは、問題解決には程遠く、やはり政治的分野での改革が、期待される。

２）政治分野

超党派の議員立法で、男女議員数の均等を目指す、、、衆議院５０％、参議院５０％（現在、衆議院１０％、参議院１０％）

女性議員の発言権の強化を計り、女性関係法案を通り易くする。

今検討しているのは、女性リーダー研修に力を入れ、将来ネットワーク化、女性リーダーの、横の連携強化、単独の風当たりを回避、女性の自信に繋げたい。

最後に

・財務省のセクハラ次官の件

セクハラやってる人、相手に不快を与えている人、自分が何をしているかの認識と、抑制神経が働かない、、、挙句の果て、自分はモテていると勘違い、、、ここ迄来ると勘違いではなく妄想。

上司の無理解が大きな素因となっている、、、、職権乱用防止、「〇〇部長、それはセクハラですよ。」という様な、言い易い空気を作れる様考えたい。

その為に、公務員のセクハラ受付け窓口を作りたい。

＊分科会＊

【金沢歌劇座ホール他　５会場　１５時００分～１７時００分】

全９分科会の内報告者２名が各々参加した、５分科会と７分科会について報告いたします。

分科会５　貧困とこどもの権利　　報告者：山田　昌次

【金沢歌劇座１階ホール　定員６００名】

学ぼう！こどもの今と未来について～こどもの豊かな成長を保障するために～

形式：パネルディスカッション
出演者：コーディネーター　荒牧　重人氏　（山梨学院大学教授）
　　パネリスト　　明橋　大二氏　（真生会富山病院診療内科部長）
　　多田　　元氏　（ＮＰＯ法人子どもセンターパオ理事長）
　　荘保　共子氏　（ＮＰＯ法人こどもの里理事長）

概要：
　近年子どもの貧困問題が大きくクローズアップされています。
　貧困はこどもの学び、成人後の就労などに大きく影響を受け、権利保障の観点からいえば諸権利が保障されない状況といえます。
　貧困によって学力、生活、将来への希望、あるいは自己肯定感を失ってしまうところにこの問題の深刻さがあります。
　このことから子どもの権利保障の観点から子どもの貧困問題を考えてみます。

始めにコーディネーターからの発言
　子どもの権利保障に付いては背景、状況、変化がなかなかとらえられていない。
　日本での原因　１．孤立　（人間関係が希薄）
　　２．格差　（教育、経済的）
　　３．子どもの力をきちんと評価できるか（子どもの権利を擁護）
　このことから皆さんに現状と取り組んでいること、そして課題について報告してもらいます。

　パネリスト１：明橋　大二氏
　１　診察室で見る子どもの現状
　　・親の前でいい子、学校でもいい子（素を出せる場所がなくなっている）
　　・死にたいと訴える子どもがふえている
　　・強い無力感にとらわれている

・親の精神疾患が圧倒的にふえている診察に来る５～７割
（片親でその親が精神疾患～生保）これはセーフティーネットが脆弱で
以上のことから自己肯定感が失われる。

２　力を入れていること
・自己肯定感を育む支援（子どもの権利を基盤にした支援）
・親の自己肯定感も大事（低いと感じる）

＊子どもの支援は子どもを育てること（育むことです）

子どもの成長について
０～３歳では　次のことを覚える
私は存在感があり必要な存在。大切な人間。生きていいんだ。
私は私でいいんだ。
３～６歳ではしつけをする。
６～成人では勉強に励む。

子どもの豊かな成長を保障するために
・自己肯定感を育む子育てを広める
・子どもの権利条約を広める
・神経多様性（ニューロダイバシテイ）を認める世の中に（人１倍敏感人、発達障害など）
・親の就労支援（特にA型事業所について）
パネリスト２：多田　元氏
１　現状・虐待は１３３，７８７件（２０１７年）にのぼる。生きづらい社会になっている。
虐待．不適切な扱いの背景として（子育て不安の広がり、孤立した子育て、家族）
・こども、若者の生きづらさ（自殺するこども、若者の増加）
・新しい貧困（経済的困窮、人間関係貧困化、大人の精神的貧困）
・子どもが必要としている支援とは？（家族にかかわる安全な居場所が必要に）
国連子ども権利条約に第６条：子どもが生きる固有の権利と発達を最大限に保障される。第８条：子どもがアイデンティティを保持する権利（自己肯定～生きる力～自分らしさと訳される）ゆえに、一人ひとりが大切にされ生き方はそれぞれ違っていい。
・子どもと大人のパートナーシップによる子どもの参加
（ともに育つ、指導監督をしない。子どものことはこどもから学ぶ。大人はかかわるプロセスを大切にする～楽しむ）
・子どもが必要とする居場所とは
こどもと大人の良い関係、安心安全なパートナーシップによる参加
こどものあそびの権利と休息の権利。子どもの相談～子どもの参加

２　今取り組んでいること

・ＮＰＯ法人子どもセンターパオ（女性のみシェルター）自立援助ホーム「ぴあかもみる」の両輪で活動中。

３　これからの課題

・子どもの支援に必要な大人の力（大人のパワー）

１）こどもを信じる力

２）子どもを温かく見守る力

３）子どもに耳を傾ける力（聴く力）

パネリスト３：荘保　供子氏

１　現状

子どもの貧困の定義：子どもの貧困とは単にお金がないと言うだけでなく子どもの権利条約に明記されているすべての権利の否定と考えられる。

法的整備には自立感の共有が必要である。助けてが言えること（他者に依存できる力を持つこと。

・釜ヶ崎のこどもたちが教えてくれたこと

子どもたちの生きざまから知った子どもの持つ力

問題解決力・自己治癒力・感じる力・人と繋がろうとする力・親をしたう力

・個性の力等輝く子どもの内なる力と生きる力それが人権

（力を守ること～肯定感を持つこと）

２　いま取り組んでいること

・ＮＰＯ法人子どもの里の日常の様子をビデオ鑑賞

室内での様子、学習、運動、相談事、地域（大人）との運動会様子、遠足等

・ビデオ鑑賞後の話

子どもの権利　子ども（人間としての大きな４つの原則

１）差別の禁止、安心安全である権利

２）危害から守られ続ける権利

３）自分を豊に力づけられる権利

４）自分で決める権利聴いてもらえる権利

大人は聞くこと：問題行動を起こす子は問題児ではなく抱えて困っている子。

子どもの非行は人権侵害を受けた子どもＳＯＳ（キャッチできる大人、寄り添う大人が必要です。）

３　これからのこと

・子どもの将来がその生まれ育つ環境によって左右されることのないように必要な環境整備と教育の機会均等を図る。

・全ての子どもたちが夢と希望を持って成長していける社会の実現を目指し、子どもの貧困対策を総合的に推進する。

コーディネーター：荒牧　重人氏
【まとめ】子どもの豊かな育ちの支えとして何が必要か。
① 自己肯定感が必要（親の肯定感が低い。親へのサポートが必要。）
助けを求められない人に～地域できづいて受け入れられたらよい。
② 大人の肯定感を育んで（子どもは見ている。参加者の皆さんもどう作り上げるかを考えて）
③ 指導でなく、お互い認めあっていけばよい関係ができるはず。
④ 子どもが納得できるまで待つ（指示はしない。おどおどしてしまう）子どもの意見をよく聞く。

以上でまとめを話され質問、意見は受けずに分科会を終了しました。

＜感想＞
近年４割近くの非正規就労を占める中、結婚から家族を作り上げる難しさもあり、作り上げる家族も多様で子どもにも影響がおよび貧困に陥る場合も在ります。大人も子どもも自己肯定感を育くくむことが必要で子どもに接するときは指導、支持をするのでなく子どもの目線でそして子ども同士の輪の中では子どもたちで解決するのを見守る度量がたいせつであることがわかりました。地域での気付き、関係機関へのつなぎから片親への就労支援、子どもへの居場所作りがもっと広がるとよいのではと感じました。

分科会７　ＤＶ・ハラスメント　　報告者：江畑　稔
【石川県文教会館１階ホール　定員５９０名】

#　ＭｅＴｏｏから　#　ＷｅＴｏｏへ　わたしたちはもう我慢しない
～すべての暴力にＮＯ！意識レベルからの変革と行動、「これから」をつくろう～

形式：ミニ講演・パネルディスカッション
出演者：講師・コーディネーター　上野　千鶴子氏　（社会学者・東京大学名誉教授／認定ＮＰＯ法人ウィメンズアクションネットワーク（ＷＡＮ）理事長）
パネリスト　牟田　和恵氏　（大阪大学大学院人間科学研究科教授）
小酒部さやか氏　（ＮＰＯ法人マタハラＮｅｔ創設者、株式会社ｎａｔｕｒａｌ　ｒｉｇｈｔ代表取締役）
伊藤　詩織氏　（ジャーナリスト、ドキュメント映像作家）

今回のテーマ、＃Metoo については、「今これをやらないでどうする！」という強い思いが、大会関係者の中にあり、じゃあ誰に頼もうか、という事で、結果、、、上野講師が選ばれます。
「パネリストとして今バッシングを受けているこの３人を、呼んで頂ければ、引き受けましょう。」という返事があり、この分科会が実現しています。

講師・コーデネーター　上野　千鶴子
・NPO 法人ウイメンズアクションネットワーク理事長
ジェンダー研究のパイオニア
過去１６年間、東京大学人文社会系研究科教授
パネリスト　牟田　和恵
・社会学者・大阪大学大学院人間科学研究科教授
１９８９年日本最初のセクハラ訴訟、横山ノック被害者側弁護人パネリスト　小酒部さやか
・NPO 法人マタハラ Net 創設者
２００５年ごろ、マタニテ―ハラスメント、マタハラという言葉を世に出した人。
パネリスト　伊藤　詩織
・現在ロンドン在住、フリーランスとして BBC,アルジャジーラ、ロイターと契約、ジャーナリスト、ドキュメント映像作家。
著書として、自身の性的被害を告発した「ブラックボックス」の著者

２０１５年４月、元 TBS ワシントン支局長による性的被害（レイプ）受ける。
最初警察、取りあってくれず、ホテルの防犯カメラ、タクシーの運転手の証言で、重い腰を上げる、、、。
伊藤さんは、防犯カメラの映像を見て、写っている女性、男に抱き抱えられて正体不明で引きずられて、エレベーターへ消えてゆく女性、、、それが自分だと、気が付いた時、猛烈な

吐き気に襲われます。
　結局逮捕状は発行されます、、、が、執行される事はありませんでした。
　当時の刑事部長（自分の単独判断で失効させたと、マスコミの前で公にする。）の指示で、逮捕は出来なかった、、、その後裁判に訴えるが不起訴、検察審査会でも不起訴、最後に民事訴訟を起こすが、相手出廷して来ず、その間マスコミは一切取り上げず、伊藤さんは海外特派員協会へ持ち込むしかなくなる。　そして最早被害者 A では、誰も耳を傾けてくれないだろうと、実名と顔を出して告発する。
　結果、物凄いバッシングに見舞われ、それは必然的に家族迄及んで、更に追い込まれる。

１）講演　　（セクハラ次官、福田さんについて）
・福田財務次官セクハラ発言、これは立派な人権侵害である。
・NO を言えない相手、、、記者クラブという情報提供者への絶対服従の場所。
　ジャーナリストの場合、セクハラは業務の一環で、普通の事として扱われ、これを旨く処理して一人前との風潮だった。
・女性記者の上司無視、黙殺し、その間に福田氏のセクハラ激しくなり、身の危険を感じ、他社へ持ち込んで表に出た。
・セクハラ加害者を助長するもの
　昔はこんな事、何とも思われなかった・・・実際は、女性が黙って辞めていた。
　女性が、もの言う、我慢しなくなった・・・女性の我慢が足りなくなったと言われる。
　その結果、セクハラのリピーター（常習者）は増長、、、常習者に共通するもの
　自分有利に解釈を誘導し、まず自分を納得させる、、、そして自分の思い通りの展開にならないと、急激に不安定に宿り、反動で逆切れし易い。（反対が存在する事で、自己の万能伝説に悪い予感。）
・性的自己決定権の剥奪
　ジェンダーで差別される・・　東京医科大学入試の際の、男子への点数加算。
　女はムラムラさせて何ぼ・・　男の視線のみが価値基準。
　女はいつ女になるのか？・・　議員の暴言（貴方は、男が対象とする女ではない。）
・強制妊娠罪を作ろう
　歴史の上で戦争が起こると、必ずレイプが発生する。
　戦争兵器になった　　（被害者は、単なる傷を負うのではなく、人間としての土台を破壊され殺されたと同じ状態に成る程のおぞましさ。）
・セクハラ対応がもぐら叩き・・・問題が、加害者目線の男目線で、問題の重さを受け止め切れてない、、、被害者目線が必要で、女性蔑視、差別意識を一掃出来ない。
・保護がゆすり屋へ変身している・・・保護してやるから、言う事聞け。
　（職権乱用、卑の露出）
・一番の要注意は管理職と、経営者、セクハラのハイリスク・グループで、一番の要注意。

パネルデスカッション
被害状況と告発の動機について
伊藤

・レイプの話聞かれなかった、、、警察の十分な配慮、捜査が行われなかった。
ミーツ―運動で世界が動き出すと、やっと報道される様になった。
・被害者の約４％位しか、訴えてない、、、裁判で勝訴する事は、更に難しいと警察で言われた。
・顔を出して訴えると、酷いバッシングが来る事は、忠告されていたが、誰も取り上げてくれない現状に、誰かが又、同じ目に合う事を考えると、、、その時、妹の顔が浮かんだ
そして自分がこれからジャーナリストとして、今自分の被害を隠す事で、本当にやっていけるのか、納得が出来なかった。
・自分の育った国が、法的に１１０年変化がなかった。（民事訴訟を起こして、相手が出て来なかったにも拘らず、、、１１０年前の法律に自分が縛られてる。）と、痛感した。

小酒部

・２回流産、会社に報告出来なかった。
１週間の産休を取ったら、「もう止めろ！」と言われ、無理して残業して、、、流産した。
・果たして自然の流産か？との疑惑もあったが、あの時上司が自宅へ来なければ、流産しなくて済んだのでは、、、それ程、上司の言葉は、辛かった。
監督署も、会社が違反行為を認めれば、動ける、、、との話だけだった。
子供二人に申し訳ないとの思い、、、誰も助けてくれない現実、自分が動こう、、、しかなかった。

牟田

・３０年前、会社でセクハラ受け、会社に相談したら、彼が悪いのは分かるが、男の彼を辞めさせる訳にはいかないから、君が辞めてくれと言われた。
・弁護士に相談したら、これ又、そんなつまらない事で訴訟を起こす人はいない、、、だった。
流石に、これは女性差別と気付き、セクハラを社会的問題にする為、裁判に持ち込んだ。
・当時の風潮は、「女で働いているんだから、旨くその辺は裁かねば遺憾ばい」、、、。
何だこれは、決して私だけの個人問題で済む話ではない、、、差別だと確信した。
・一人では戦えない、、、だから with you。
世に一目置かれている裁判所、検事、上司、、、皆、女性に対する感性は、只のおっさ

んだった。

告発した時の反響は、、、、？
伊藤
・日本ではすごい逆風だった、、、どう日本で生きてゆくか、深刻な命がけの問題だった。
家族にまで、バッシングが向けられる様になって、無言、恫喝電話、家の周りの様子の変化、、、自分の為に、家族全員を危険に晒して、途方に暮れた、、、その頃、ロンドンの放送協会から招かれ、「今日本では何が起こっているのか、、、？」そして、ロンドンへ、、、そして今でも、ロンドン、、、。
・ブラックボックス、、、日本には、社会の中のあちこちに、ブラックボックスがある。
・最初の批判、女性だった、、、「名前が出てしまって、男性が可哀相、、、。」目の前が真っ暗になった。
２０１５年４月に被害を受け、告発後表を歩けなくなって、外出は変装してたが、この夏から変装は止めた、、、結果、皆応援してくれて、以前の日常が戻って来た感じがした。
バッシングがネット上だけなんだと分かった、、、女性のバッシングが辛かった。

小酒部
・能力がないのを、全て会社の所為にするな。
何度もニュースに出る事で、「いい気になるな」と、バッシングする人も、、、、。
・バッシングから「マタハラ」という言葉が生まれ、それが広まって行った。。
女の敵は、女、、、しかしその女も「キッと」辛い立場に居るんではないか、、、。

牟田
・慰安婦問題は、ミーツ―問題の先駆けだ、、、顔、名前を出して蔑まれて、バッシングの中で、９０年の歳月を経ても、嘘つきと言われている、、、。
・女議員から、（LGBT は生産性がないと発言）バッシングされている、、、牟田の研究はねつ造、、、あんなの大学に置いといて良いのか、研究費は無駄だ。」と、言われている。
もの言う女を、黙らせる、、、そんな風に感じる。

伊藤
・とてもじゃないが一人では、ここ迄出来なかった、、、ミーツ―運動が後押ししてくれて、出来た、、、そして始め反対だった家族も、応援してくれる様になった。
・少しでも逆風の無い場所を作ろうとしたのだから、簡単には止められない。
・何もあなたは悪くない、、、と、褒めて貰うのが一番の救い。

小酒部

・夫に発破かけた、、、子供出来る様な事したんだから、あんたにも責任がある、、、と、夫の反応が変わった、、、家に上司が来た時、録音してくれ、これが後の裁判の決めてとなった。
・マタハラという言葉、、、最初上司馬鹿にしていた、、、「どうぞ、好きに言って下さい」
世間に相手にされる筈がない、そんな感じだった、、、それが、全国的に有名になった、、、。
同じ思いをして、子供を死なせてしまった人が、他にも大勢いるんだと初めて分かった。
・強さなんてもんじゃない、、、生んで上げられなかった二人の子供の為、止められなかった。

伊藤
・強いというより、自分の真実を信じている。
・伝える事、、、告発する事で、「被害者が何を思っているのか、、、こんな風に感じているんだ。」と、気付いて貰いたい。
・急に「フッと」涙が出る、、、人間の土台の部分が、傷付けられてる。
慰安婦老婦人も、「死ぬまで涙、出るだろう。」と言ってる。

小酒部
・自分が上司と旨く出来なかったと、後悔している部分もある、、。
しかし、やっぱり法律違反じゃないのか、、、納得出来なかった。
上司、、、お前の為に、休みの日に態々来てるんだぞ。
あんたの旦那は、何を考えているんだ、、、妊娠しているのに、働かせるなんて、、、。
家族批判迄、飛び出す様になる

牟田
・横山ノック、、、被害者、心折れない様、順々と支えた、、、カウンセラーの役目。
この辺からこれからの事へ移って行く。
・教育されたおっさんは、もうどうにもならないのか、もう手遅れなんだろうか、、、？
トランプを見よ
・２０１７年マタハラ防止法、、、守るであろうという前提の性善説、これでは駄目だ。
（先ず総論が出て、各論である現場サイドでの検証が成されないか、お座なりの為、使い勝手が悪い、これが直らない、、、結果、立場の弱い、弱者に全部しわ寄せが行く。逆マタハラ）
・一人休むと、他の人にしわ寄せが行く、、、フォローする人達に被害。
（実際は７０％の補助はあるが、失業保険から引き出され、税金、、、事業者は無傷。）
職場の雰囲気悪くなり、今迄一緒の位置に居た筈が、加害者被害者の雰囲気。
しかし、これは現場サイドの問題ではない。

セクハラの法制化の重要性

セクハラ罪という法律はない・・・麻生氏、、、だから作れよ。
当事者の痛みが、届かないのであれば、戦うしかない。
セクハラ罪は難しい、、、どこから文章化出来るか、、、上司のセクハラを契機としてはどうか？　　（会社におけるセクハラは、初めから逃げられない関係の中で起こる、、、上司に圧倒的な有利な立場がある。
自分はモテると錯覚、、、自分に都合よく解釈、相手も同じ気持ちと、、、よいしょされてる状態に気が付かない、、、自分はモテてると、、、。
福田次官、、、同僚は笑っていた、「部長それはセクハラですよ。」と、言ってほしかった。

政治的レベル

国会でもセクハラ横行、これでは方法は難しい、、、女性が半数位になれば変わるのではないのか、、、。

伊藤

・ニュースの現場レベルではなく、デスクレベルに女性を置けば、又状況は変わる。
・誰でも傍観者になる、、、誰でも加害者、被害者になる、、、成らないでほしい。
　アメリカトヨタの場合、、、１億９，０００万ドル、、、罰則を厳しくする。
・サイレントマジョリテーの声を、形にする、、、署名活動。
・自分の痛み、、、自分が一番知っている。
　貴方は全く悪くなかったと、言われた、、、だから、これから何をしようかと思った。
　まずは生き延びる事、、、安全を計った、、、だから、今話せている。

小酒部

・難しいのであれば、今でなくて良い、、、子どもに無関心はやめよう。

牟田

・ミーツ―のメッセージ、、、「声を上げても良いんだよ。」と言いたい、孤立させない。

戦って得たもの

伊藤・・・仲間、
牟田・・・仲間、ファーストペンギンと見られた。
上野・・・新しい人生。

「2日目」　　１０月１３日（土）

＊記念講演＊

【金沢歌劇座１階ホール　　９時３０分～１０時４５分】　　報告者：江畑　稔

「能の道を歩む　　～私の生きがい～」　　松田　若子氏（宝生流能楽師）

〝歌がふるふる、加賀宝生の、、、〃と、北島三郎も歌っておりますが、、、。あの加賀宝生流能の、全国に２０人しかいない女性能楽師の一人

松田　若子・・・加賀宝生流能楽師の講演です。

講演に先駆けて、能の実演があり、出し物は、、、

船弁慶・・・兄頼朝に謀反の疑いを掛けられた義経は、京の都から落ち延びて行きます。西国に落ちる為、摂津の国まで来た時、（今の大阪ですが、）静御前もここまで来たが、ここからは海、、、一人京へ帰る事になります。
そして船出しますが、、、沖合で待ち受けるのは、源氏に滅ぼされた平家一門。中でも勇猛果敢だった、海に沈んだ平知盛の霊が現れ、義経を海中へ引きずり込もうとします、、、しかし弁慶の機転により難を逃れ、一行は西国へと落ち延びて行きます。

講演　（能は男の世界、、、能楽師の家に生まれた、女性能楽師の半生の振り返り。）

・彼女は幼い頃の自分の振り返りから、話しを始めます、、、三才より祖父と父の稽古を受け、初舞台は五才、、、その頃の思い出には、扇の要の竹が指に痛かった、、、と述懐する。

・幼少期はズーッと子役、、、。
そして見た目を男の子に見せる為に、散髪も女の子ではなく、男の子だった。
図書館のカードも、男の子は青、女の子は赤、私はいつも男の子の青だった。
ある時、図書館の職員が「アレッ、女の子だったんだ、、、。」と気付き、それからは赤になった。

・大学は、東京芸大で能楽を６年、しかし父親は、、、最高の教授陣での教育、女子にはもったいないと言っていた。
父親は、女性だから、真の後継者になれるのか、疑問に思っていた様子で、能は娘には教養程度で良い、それよりも女子の世界で、立派になってくれれば、それで良いと思っていたんでは、、、。

・金沢に戻った時に、能楽師にはならないと宣言した、、、。
しかし、意外にも周りの反応は、そうではなかった。
後輩を育てないでどうする、、、と言われ、（そこで彼女は、自分自身と向き合わざるを得なくなり、逆に私の方に、いばらの道を行く覚悟が出来てなかった、、、という事に気付かされる。）
皆の期待に押され、この道に進む事になった。

・能楽の発祥は中国、、、奈良、平安を猿学で広まり（今で言う大道芸）木戸銭を取り、流布していったが、これを集大成し、芸術の領域まで高めたのは室町時代の観阿弥、世阿弥。

爾来６００年、能楽は男の世界、、、女性は趣味、教養の世界でしかなかった。

しかしここで彼女にも転機が訪れます、、、重要無形文化財（総合指定）になってから、女性能楽師の指定も始まり、プロへの道が女性にも開かれる様になった。

しかしここに及んでも父からは、「舞っている内は、男に近ずく様にしろ、女を忘れろ。」と言われていた、、、。

能の本質に迫ると、女が阻害すると迄言われ、認定の時、尊敬していた大学の恩師からも女性が演ずる能に対して、色々心配された、、、。

・流産後も舞台に立ち、妊娠 5 ヶ月で、一時間座りっ放しの時もあった。

・子供は主人に預け、主人は保育園に預け、、、そういう時期もあった。

・免疫力が低下、骨盤関節炎に掛かってしまい、退院後歩行訓練、2 か月後には舞っていた。

・セリフの謡えを唄う、、、。

父の死、、、能が全てを包み込んで呉れた、、、。　（父親に対する様々な思いを、、、。）

・能楽の舞台、、、神社、、、女人禁制の舞台がある様に、女性は万能ではない。

・能楽の秘事、深さ、、、女性の制約がある。

幼き時の母の涙が今でも記憶に残っている、、、言葉で伝えられない事もある、、、。

・自分を信じて、前に進んで行こう、、、。

今年振興基金に、新規事業として、能が採用された、、、。

それを機会に、女性だけの能を始め、全国の女性能楽師の舞を、来年 3/21 行う。

出し物は、源氏物語の橋姫。

・私の生きがいとしての、能を好きになって貰いたい。

能は、祈りである、、、。

＜大会宣言＞

１．私たちは、強い意志を持ち、これからも継続して男女共同参画の実現に向けてあらゆる課題に取り組みます。

１．次の時代を生きる若い世代の一人ひとりが、個人として尊重され、その才能を充分に発揮できる地域づくり、社会づくりに取り組みます。

１．SDGｓ目標５ジェンダーの平等を絶えず意識し、女性を取り巻く世界の動きと連動し、身近な課題にも情熱をもって取り組みます。

＜日本女性会議２０１８in 金沢に参加して＞

江畑　稔

加賀百万石の城下町金沢、その兼六公園の坂を下ってゆくと金沢歌劇座ホール、加賀宝生流能の実演可能な立派な建物、これが今回の女性会議のメイン会場です。

そして女性能楽師による、義経の逃避行を題材にした能「船弁慶」の実演が行われ、その後、能という男の世界の中での女性能楽師としての生きざまと、一時は挫折しかけた自身の心情を吐露した、実に女性会議に相応しい話でありました。

そして何と言っても、今年の女性会議のハイライトは＃Metoo をテーマにした、第７分科会の熱気であったと、私は思います。

「今このテーマをやらないで、いつやるんだ、、、。」という強いコンセンサスが、大会関係者の間にあり、「準強姦被害者の伊藤詩織さん、マタハラ被害者小酒部さやかさん、中傷被害の牟田阪大教授、この３人を呼んで呉れればやりましょう。」との演者の上野千鶴子さんの強い要望の中で、第７分科会は実現しております。

当然この分科会の主役は、伊藤詩織さんです、、、この会議の為に、イギリスから一時帰国して参加しています。

この臨場感が、生々しい被害者の生の声が、時代の流れの中で何が起こっているのかを知り、何が起ころうとしているのかを予見させる、、、それがこの会議が長く支えられている原動力になっているんだと、改めて感じさせられます。

第７分科会は５００人の定員で、当然会場は満杯、後半には演者も聴衆も一体となった雰囲気溢れる中で、紛れ込んだマイノリテ―の男性陣は、圧倒される有様でした。

町の佇まいは静観でありながら、国連の出先もあり、多様な人種が住んで、エネルギーのある町なんだなという印象を持って帰って来ました。

山田　昌次

昨年、平成３０年１０月１２日～１３日に「日本女性会議」は金沢で開催され、私共団体の２名の者が派遣されました。

金沢は県庁所在地で人口４２．４万人余り、前田利家が入城して以来３００年余りの歴史ある街で伝統工芸、芸能、食文化の受け継がれてきた都市であり、ゆったりとした落ち着いた中にも近代化した街づくりがされていたのが印象的でした。

会議は金沢歌劇座ホールをメーン会場にして行われましたが、参加者の男女比ではもちろん女性が８割方だったでしょうか。しかし私が感じたのは基調講演、記念講演、記念シンポジュームとも女性の不平等に関する事柄が多くこの会議に参加すべきは、女性はもちろんのこと男性も積極的に参加することで自分の固定概念を、知識を変えていけるのではないかと思いました。

分科会には貧困と子どもの権利について参加しましたが、ここでの報告からも自分はまだまだ未熟で出来ていないことが多々あることを実感した会議でした。

そして協議会で開催されている報告会等の発表の場などで共有され、さらに広まっていければよいのではと感じています。

各会場ともどこも熱気にあふれ身に染みる報告が行われましたが、会場内ではボランテアの方々の親切な対応が印象に残っています。

最後に私共をこの会議に参加させていただき有意義な２日間を過ごせたこと、関係者各位に心から感謝申し上げ結びといたします。

ありがとうございました。